

Guardium.Inc

新バージョン(Ver.5)をリリース。 日本でのDBフォレンジクス市場 拡大に期待

去る7月上旬、伊藤忠テクノサイエンス（CTC、奥田陽一社長）は、米国Guardium社のデータベースセキュリティ製品「SQL Guard」の国内販売と、同社に対して約25万ドルの戦略的投資を実施したことを発表した。SQL Guardの販売開始を期に、CTCのテレコム企画開発部(丸田淳一部長)では、7月27日に「今から始める内部統制時代のDBセキュリティ」と題するセミナーを開催し、多くの参加者を集めた。同セミナーのゲストスピーカーとして招聘されたGuardium社CTOのRon Ben-Natan博士に、製品の特長、日本市場への期待等について直撃インタビューした。



Ron Ben-Natan 博士
Guardium.Inc CTO

企業情報の見張り番

Guardium SQL Guard

まず、貴社の概要及び製品の特長からお聞かせください。

Ron Ben-Natan CTO (以下、RB)

私どもGuardium社は、米国マサチューセッツ州ウォルサムに本社を置くベンチャー企業で2002年に設立されました。現在、世界各国のパートナーを通じて、企業の重要なビジネスデータに対するネットワークからの脅威を監視・防御するデータベースセキュリティソリューション「SQL Guard」を提供しており、年300%の成長率で伸張しています。

SQL Guardは、企業の内部統制強化を支援するデータベースセキュリティ製品です。クライアントアプリケーションとデータベース(DB)サーバ間のトランザクションをネットワークに負荷をかけることなくモニタリングし、ネットワーク上でDBにアクセスする際のSQL

文から、DMLコマンドやDDLコマンド、セッション情報、ソースプログラム情報、DBへのログインアカウント情報などを取得して、エンドユーザーの行動を可視化して各種レポートを作成します。不正アクセスを検出した場合は、アラート通知/アクセス拒否などのアクセス制御をリアルタイムに実行します。このように、SQL Guardは、「情報の見張り番」の役割を果たす

「情報の見張り番」の役割を果たすアプライアンス製品です。主な特長として以下の点があげられます。

- ①アプライアンス製品なので導入が容易。また、稼働中のシステムでもシステムを停止せずに導入することが可能。
- ②ネットワーク上でやりとりされるパケット情報を収集してデータを分析する“パケット・キャプチャ方式”を採用しているため、デ

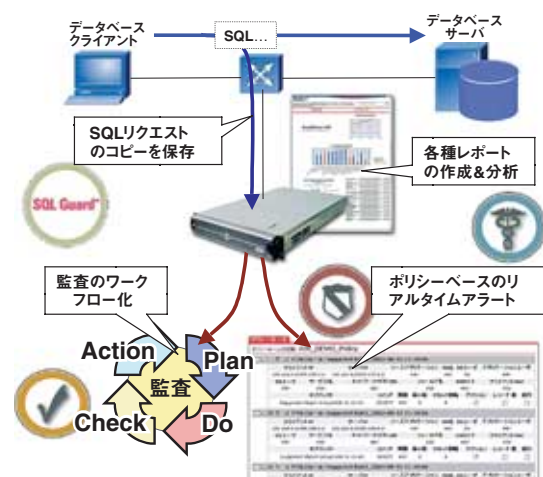


図1 SQL Guardの製品概要

ータベース自体にほとんど負荷をかけずにデータ解析が可能。

- ③DBへの不正なアクセスがあった際に、アクセス者に対して自動的にアラートを出したり、アクセス拒否をするなど、セキュリティポリシーに応じたアクセス制御設定が可能。

内部統制強化にデータベース
フォレンジクスは不可欠

SQL Guard開発の狙いは…。

RB 企業内における最も重要なビジネス情報はデータベースに格納されています。企業は、外部からの不正アクセスやSQLインジェクションなどの攻撃からデータベースに格納された重要情報を保護するだけでなく、内部からの情報漏洩や不正操作などのインシデントにも対応しなければなりません。万一、情報漏洩などが発生してしまった場合でも、即座に経緯や問題の把握をし、問題を極小化するように対処することが重要です。そのためには、「いつ」「誰が」「何を」「どこで」「どの様に」操作したのか、アクセスログを調査しその原因を追跡するといった、インシデント発生の事後対策であるフォレンジクス (forensics) が必要です。そこで、情報漏洩の阻止とDBフォレンジクスを実現するアプリケーション製品として、SQL Guardを開発しました。

企業における内部統制の強化には、DBフォレンジクスは必須要件だと思っています。情報セキュリティ事故の原因究明や、企業監査の際に監査法人などが求める資料の収集・解析を支援するソリューションとして、SQLGuardはアメリカの大手銀行やヨーロッパの大手金融サービス機関をはじめ、全世界の金融業界および情報通信業界を中心に100社以上の企業への導入実績があります。

日本での販売拡大に向け、CTCに大きな期待

エア- (北山洋一社長) を総代理店として、昨年1月に日本市場に進出しま

したが、日本市場をどのように捉えていますか。

RB 私どもにとって日本市場は、①世界第二の経済大国ということ、②IT活用の成熟度が高く、DBが非常に沢山利用されている、③個人情報保護など情報セキュリティに対する意識が非常に高いということの3点から、非常に魅力的で重要な市場であると考えています。また今後、韓国、中国を含めたアジア太平洋地域に製品展開するうえで、2バイトコード化など製品のローカライズも含め、日本市場での成功が大きなカギとなります。その意味でも、きわめて重要であると考えています。

CTC社が、国内販売パートナーとして加わりましたが…。

RB 昨年、日本市場向けに製品をリリースしてから、すでにいくつかの導入実績があります。例えば、国立病院機構・神戸医療センターでは、個人情報保護法に基づく患者情報などの情報漏洩対策をSQL Guardにより行っていますし、安田女子大学では学生の個人情報保護対策に活用していると聞いています。日本では昨年4月から完全施行された個人情報保護法、さらには2008年施行予定の日本版SOXを見据えて、内部統制強化に関するソリューションは非常に注目を集めているようですし、こういった周辺環境に加え、日本有数のITソリューションベンダであるCTC様がパートナーとして加わったことで、日本市場での製品販売がより加速されるものと大いに期待しています。

また、日本市場に向けた製品のカスタマイズやローカライズを以前からお願いしてきましたが、今回CTC様より投資していただいたということは、長期にわたって緊密な関係を築きあげていこうという強い意志のあらわれであると考えています。

CTC社では、今後3年間で10億円の売上を目標にしていますが、これについては…。

RB 十分達成可能であり、むしろ少し控えめのように感じます。(笑い)

機能を強化した新バージョン (Ver.5) を世界同時リリース

最後に、機能拡充を含め、今後の展開についてお聞かせください。

RB この夏、機能強化した新バージョン (Ver.5) を世界同時にリリースします。新版では、新たにInformix 10.x、Microsoft SQL Server 2005、Oracle 10gR2、Sybase ASE 15、Sybase IQ 12.6に対応したほか、アプリケーションユーザーの監査・監視オプションをOracle E-Business Suite、PeopleSoftに広げました。また、個人情報漏洩対策のアクセラレータ「Data Privacy Accelerator」を追加し、外部ツールとの連携も強化されています。ポリシー設定機能も拡張されています。

本日は有り難うございました。

伊藤忠テクノサイエンス(株)
テレコム企画開発部

TEL : 03-6203-4248

E-mail : telbizpm@ctc-g.co.jp

URL : http://www.ctc-g.co.jp